

第25回横浜環境活動賞 ヨコハマ温暖化対策賞 表彰式を開催します

横浜市内では、地域で様々な環境活動を積極的に行っている方々を「横浜環境活動賞」として、事業者の温暖化対策において優良な事業者を「ヨコハマ温暖化対策賞」として表彰しています。次のとおり、第25回横浜環境活動賞・ヨコハマ温暖化対策賞表彰式を開催します。

1 日時

平成30年6月14日（木）14時00分から16時15分まで（予定）
（開場 13時15分）

2 会場

横浜市長公舎 集会ホール（横浜市西区老松町2番地）

3 内容

- 表彰式 14:00～15:05
副市長小林一美より受賞者の皆様に表彰状を贈呈
- 記念撮影 15:05～15:20
集合写真の撮影
- ポスターセッション 15:35～16:15
活動紹介パネル展示及び情報交換・交流会

4 受賞者

別添一覧のとおり

5 取材について

全て公開いたしますので、取材をお願いいたします。

取材いただける場合は、6月13日（水）17時までに、次の内容を下記のお問合せ先にご連絡ください。

- 貴社名
- 取材担当者名
- 当日の御連絡先
- 車での御来場の有無及び車種、ナンバー

なお、取材にあたっては、社名の入った腕章の着用をお願いいたします。

6 その他

一般の方はご入場いただけませんので、ご了承ください。

平成29年度の表彰式の様子



〔第24回横浜環境活動賞〕



〔ヨコハマ温暖化対策賞〕

お問合せ先

（第25回横浜環境活動賞について）

環境創造局政策課環境プロモーション担当課長 小野寺 紀子 Tel 045-671-3830

（ヨコハマ温暖化対策賞について）

環境創造局環境管理課長 奥山 勝秀 Tel 045-671-2474

（裏面あり）

会場案内図

住所 横浜市西区老松町2番地
横浜市長公舎



交通アクセス

●電車

JR/地下鉄桜木町駅下車 徒歩約12分
京急日の出町駅下車 徒歩約10分

●バス

市営バス野毛坂下車 徒歩約5分

●タクシー

横浜駅より 約10分
桜木町より 約5分

第25回横浜環境活動賞受賞者について

横浜環境活動賞は、地域で様々な環境活動を積極的に行っている方々を表彰する制度です。
横浜市は、この制度を通し、市民の皆様に環境の保全・再生・創造に対する関心をより一層高め
ていただくとともに、地域の環境活動を推進し、環境にやさしいまちづくりに取り組む方々を応
援しています。

※ 受賞者の決定については、平成30年3月22日に記者発表しています。
「第25回横浜環境活動賞 受賞者決定」
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kisha/h29/180322-1.html>

【 第25回横浜環境活動賞受賞者一覧 (全10者) 】 (敬称略、五十音順)

市民の部 (6団体)

大賞 横浜市地球温暖化対策推進協議会
実践賞 熊野の森もろおかスタイル
笹下川再生プロジェクト
南中あじさい咲かせ隊
横浜海の公園ライフセービングクラブ
緑園地区活性化委員会 緑園子ども見守りプロジェクト

企業の部 (2社)

大賞 株式会社ファンケル
実践賞 株式会社アベックス 京浜東海支社

児童・生徒・学生の部 (2団体)

大賞 横浜市立三保小学校
実践賞 明治学院大学横浜キャンパス ヤギ除草システムプロジェクト

生物多様性特別賞 (1団体)

笹下川再生プロジェクト

※受賞者の取組は、資料1参照

ヨコハマ温暖化対策賞受賞事業者について

ヨコハマ温暖化対策賞は、事業者の温暖化対策において優良な事業者を表彰する制度です。このたび、横浜市地球温暖化対策計画書制度において、H29 年度に 308 事業者より実施状況報告書を提出いただきました。この報告書について大幅な温室効果ガス排出量の削減などの顕著な実績をあげた事業者を、専門家の御意見を踏まえてヨコハマ温暖化対策賞の受賞者に決定しました。

【 ヨコハマ温暖化対策賞受賞事業者一覧（全 19 者） 】（敬称略、五十音順）

事業者個々の取組による受賞（15 者）

旭硝子株式会社
EMG ルブリカンツ合同会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
学校法人神奈川大学
株式会社京三製作所
コストコホールセールジャパン株式会社
シェルルブリカンツジャパン株式会社
株式会社すかいらく
相鉄ホテル株式会社
田辺三菱製薬株式会社
東京電力ホールディングス株式会社
野村不動産株式会社
みなとみらい二十一熱供給株式会社
株式会社ルミネ

事業者間の連携による取組の受賞（2 組 4 者）

株式会社 J-オイルミルズ・日産自動車株式会社
株式会社東芝・日清オイリオグループ株式会社

※受賞者の取組は、資料 2 参照

■横浜市地球温暖化対策計画書制度について

横浜市生活環境の保全等に関する条例に基づき、一定規模以上のエネルギーを使用する事業者等に、3 年間の温室効果ガスの削減計画書及び報告書の提出を義務付けています。

本市は、提出された計画書・報告書の評価、公表、表彰を行います。

－ 制度詳細等については下記 URL を御参照ください。－

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/ondan/joureii/>

第25回横浜環境活動賞 受賞者概要

(敬称略・五十音順)

市民の部 (6団体)

受賞内容	受賞者名	活動地域	活動概要
大賞	横浜市地球温暖化対策推進協議会	市内全域	市民、事業者、大学、行政により構成される組織。温室効果ガス削減目標の達成等に向け、イベントや学習会、二酸化炭素削減のためのキャンペーン等を自治体や市民団体、市内大学等、多様な団体と連携して行っており、市民、地域への波及効果を高めて効果的な普及活動を実践している。
実践賞	熊野の森もろおかスタイル	港北区	地域の中の耕作放棄地を地域の人たちと一緒に耕して畑を作り、そこで野菜の栽培や、エコストーブやソーラークッカーを使った食事会等、様々なイベントを実施している。農業、省エネ等のテーマと映画上映、寄席等、誰もが参加しやすいプログラムを組み合わせ、活動を通じて地域のコミュニティ作りを進めている。
実践賞	笹下川再生プロジェクト 生物多様性特別賞 同時受賞	港南区	笹下川の清掃や川沿いの花壇の整備、講座「川の学校」を開催するなど、川に親しむ活動を行っているほか、水質検査や生き物調査等も実施し、実体験を通して自然への関心を高め、生き物のつながりを学べる仕組みを作っている。活動には、子どもからシニア世代までの幅広い層が参加し、活動を通して地域の中の異世代交流がなされている。
実践賞	南中あじさい咲かせ隊	南区	中学校の園芸部の生徒と中学校を学区とする4連合自治会の地域の住民が協力し、紫陽花の育成・増殖を行っている。中学校内に加え、周辺の沿道、近隣の家・民有地においても植栽を進める等、活動を拡大し、地域全体での緑化活動に向け取り組んでいる。
実践賞	横浜海の公園 ライフセービングクラブ	金沢区	30年に及ぶ海の公園の監視所活動を行う中、利用者や近隣住民を巻き込んでビーチクリーンを通じた環境保全活動を行っている。また、海との関わり方や海ゴミから知る海の現状など、近隣の学校と連携した環境教育の実施や、アマモの異常繁茂への調査協力等も行っている。
実践賞	緑園地区活性化委員会 緑園子ども見守りプロジェクト	泉区、 戸塚区	地域の課題解決を地域で取り組むことを目的に連合自治会等で構成された組織。小学生に花を育ててもらい、希望された家々に配ることで、花の世話をしながら、児童の登下校時に事故や災害から見守ってもらう取組を行っている。児童が花苗を育てる過程を作り、花に親しみ、育てる機会を提供している。

(裏面あり)

企業の部（2社）

受賞内容	受賞者名	所在区	取組概要
大賞	株式会社ファンケル	中区	生態系に配慮した原料調達、工場での太陽光発電システム導入や、生産工程で発生する廃棄物削減の取組等に加え、食品損失削減の取組として、精米で捨てられているヌカや胚芽を食べやすくした発芽米の開発のほか、無期限返品保証制度等を実施し、顧客の買い過ぎによる損失を減らしている。また、従業員が家族ぐるみで省エネに取り組めるプログラムを実施している。
実践賞	株式会社アペックス 京浜東海支社	都筑区	環境に配慮した独自の自動販売機の開発を行っている。また、業界で初めて間伐材を含む国産材 100%紙カップの使用を開始した。間伐材マークやデザインにより、啓発活動にも務めている。小学生を対象に環境・防災の出前授業なども実施している。

児童・生徒・学生の部（2団体）

受賞内容	受賞者名	所在区	活動概要
大賞	横浜市立三保小学校	緑区	多くの人々に地域の自然の素晴らしさを伝えたいという思いから、児童の発案により、継続的に地域の様々な生物や、里山の景観の写真を自分たちで撮り、地区センターや区役所、駅等様々な場所で写真展を開催している。活動の中で地域や関わった人の魅力を再確認するとともに、この場所が自分たちにとって「ふるさと」であるという気づきにつながっている。
実践賞	明治学院大学横浜キャンパス ヤギ除草システムプロジェクト	戸塚区	学生が主体となり、キャンパス内の雑草を除草機や除草剤を使わずに、ヤギに食べさせることによって除草するプロジェクト活動を行っている。ポスター、動画、SNS 等各種ツールを利用し、学内外への広報活動にも積極的に取り組んでいる。

ヨコハマ温暖化対策賞 受賞者概要

(敬称略・五十音順)

事業者個々の取組 (15 者)

受賞事業者	事業者の取組
旭硝子株式会社	<p>京浜工場は、ガラス生産工程におけるエネルギー使用量の削減に取り組み、当該事業所のエネルギー使用量の 50%を占める電力使用量の削減を実施した。主な取組は、硝子研磨工程に新研磨材を導入し、それに合わせた最適な研磨工程を構築したことである。</p> <p>特に新研磨材導入に伴うモーター運転台数削減による消費電力の削減効果が大きかった。</p> <p>上記により平成 27 年度に約 1,500 トンの CO₂ を削減し、また前記に加え平成 25～28 年度に照明の LED 化、ポンプ・ファン等モーターのインバータ化、蒸気配管ロスの低減等の生産工程効率化と省エネルギー化を両立した取組を実施し、合計で約 6300 トン、約 8%の CO₂ 排出削減を達成した。</p>
EMG ルブリカンツ合同会社 (旧 EMG マーケティング合同会社)	<p>鶴見潤滑油工場は、油炊きボイラー 10 台を効率の良いガス炊きボイラー 5 台に更新し、燃料の変換による最適な運用で蒸気生成の効率を向上させた。</p> <p>平成 18 年度には燃料として灯油約 1,700 kL 消費したが 19 年度の消費量は都市ガス約 1,200 m³となった。</p> <p>上記取組により平成 19 年度に約 1,500 トン、約 36%の CO₂ 排出削減を達成した。</p>
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	<p>横浜コンピュータセンターは、同社の事業に重要な空調設備の更新を定期的に推進している。吸収式冷凍機 2 台、空冷チラー[※] 9 台は高効率の機種に更新し、電力の使用量を削減した。さらに、1 次ポンプ 9 台の高効率モーターへの更新と、冬期の低温外気を利用するフリークーリングシステムの導入を行い、電力の使用量を削減した。</p> <p>上記により平成 21 年度に約 1,000 トンの CO₂ 排出量の削減を達成した。他にも吸収式冷凍機からターボ冷凍機の更新、照明設備の LED 化で電力の使用量を削減した。設備更新は中長期的視点から計画的に実施している。</p>
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	<p>電力量の削減は、データ通信装置の省エネ集約化と、それに電力を供給する整流装置の高効率化設備の更新による。旧型整流装置の 45 台を高効率な新型 4 台に更新することで、平成 27 年度に約 590 トンの CO₂ 排出量削減を達成した。また平成 21、28 年度は照明の LED 化を推進し、省エネに取り組んだ。</p>
学校法人神奈川大学	<p>本学は、省エネ法に対応し地球環境の保全に資するため、エネルギー使用量原単位を平成 21 年度比、年平均 1%以上の削減を基本方針として、省エネ中長期計画を策定し、それに基づく機器の導入や更新及び運用改善による省エネルギー対策を進めている。</p> <p>横浜及び中山キャンパスでは、平成 22～28 年度において照明の LED 化、太陽光発電システムの導入、高効率ガスヒートポンプチラーや高効率ビルマルチエアコン等の設備更新を計画的に推進した。</p> <p>上記取組により合計で約 650 トン、約 9%の CO₂ 排出削減を達成した。</p>
株式会社京三製作所	<p>本社・工場は、電力の使用量を削減した。主な取組は、外調機の間欠運転やターボ冷凍機、チラーの運転配分の検討、試験設備の待機電力の見直し等の運用改善を推進した。また設備は、照明の LED 化、太陽光発電の導入、変圧器のトプランナーへの更新等を実施した。</p> <p>上記取組により平成 25～28 年度に合計で約 520 トン、約 13%の CO₂ 排出削減を達成した。</p>
コストコホールセールジャパン株式会社	<p>金沢シーサイド倉庫店は、エネルギー使用量の高い照明器具の電力量削減に取り組んだ。店舗内に設置された 300 灯を超える水銀灯の LED 化を実施した。</p> <p>この取組により平成 28 年度に約 300 トン、10%超の CO₂ 排出削減を達成した。</p>

受賞事業者	事業者の取組
シェルブリカンツジャパン株式会社 (旧 昭和シェル石油株式会社)	<p>横浜事業所は、照明の高効率化及び潤滑油製造時に必要なボイラーによる蒸気の使用量の効率化を推進した。</p> <p>照明は、水銀灯のLED化を実施した。生産工程で使用する蒸気は、自動制御により複数台のボイラーを稼働させて製造していた。このボイラーのエネルギー使用効率を向上させるため、ボイラーの稼働を製品の生産状況に合わせた手動制御による運用に変更し、必要最小限の台数を稼働させ灯油使用量を削減した。</p> <p>上記取組により平成28年度に合計で約630トン、約15%のCO₂排出削減を達成した。</p>
株式会社すかいらく	<p>すかいらくグループは、全店舗（国内3000店超）で照明の高効率化を推進した。横浜市内は141店舗の照明のLED化を実施し、平成24年度に約670トンのCO₂排出量削減を達成した。</p> <p>また同社は、高効率エアコン導入やファンのインバータ化等の設備更新以外に、従業員による毎日の電気、ガス、水道の検針による使用量把握、グリーンカーテン等の省エネ意識を醸成する節電対策にも意欲的に取り組んでいる。さらに昨年より次世代型燃料電池（SOFC）を採用。横浜市内店舗への設置も検討している。</p>
相鉄ホテル株式会社	<p>横浜ベイシエトン ホテル& Towersは、平成18～28年度で計画的に空調・熱源設備更新を実施した。主な取組は、冷温水ポンプ、空調機モーターのインバータ化、貯湯槽の制御変更等である。</p> <p>上記取組により合計で約750トン、約10%のCO₂排出削減を達成した。</p>
田辺三菱製薬株式会社	<p>エネルギーの削減は、設備保守管理事業者と連携し、設備の効率的な運用管理を推進した。具体的には空調機器、熱源機器のエネルギー消費データを計測、分析し課題を抽出した。その課題に対する仮説を立て実際に検証し、省エネに最適な運用を見出した。</p> <p>主な取組は、熱源機器の夜間ハンチング予防、AHU※制御仕様変更等の省エネチューニングを実施した。</p> <p>上記取組により平成23～28年度の合計で約710トン、約12%のCO₂排出削減を達成した。</p>
東京電力ホールディングス株式会社	<p>技術開発センターは、平成23～28年度に節電メニューの実施を徹底的に推進し、CO₂を削減した。主な取組は、空調温度管理、外気導入量管理、未使用エリアの空調停止、事務室・共用部照明の間引き等であり、管理を徹底するため、中央監視で昼休みや定時後の強制消灯を実施した。</p> <p>上記により、約580トン、約19%のCO₂排出削減を達成した。</p>
野村不動産株式会社	<p>本事業者は、横浜ビジネスパークの施設管理を運営している。平成25年～27年度に1万灯を超える照明器具の更新（FL⇒HF）を実施した。</p> <p>上記により、約1,200トンのCO₂排出削減を達成した。</p> <p>同事業所の特徴は、中央監視で集中制御し、BEMS※導入によるエネルギー使用量の把握を行い、省エネ活動を推進している。</p>
みなとみらい二十一熱供給株式会社	<p>みなとみらい21中央地区の冷温熱供給を担っている同社は、供給先のビルが増加する中、エネルギー使用量の効率化に取り組んでいる。</p> <p>老朽化した吸収式冷凍機及びターボ冷凍機を高効率吸収式冷凍機およびインバーターターボ冷凍機へ更新した。</p> <p>上記取組を平成27年度に実施し、約2,000トン、約16%のCO₂排出削減を達成した。同社は冷温熱供給開始から間もなく30年になり、事業拡大に伴う設備投資と老朽化施設の更新を計画的に推進している。</p>
株式会社ルミネ	<p>横浜店は、施設管理を実施している設備保守管理事業者と連携し店舗のリニューアル等に合わせる等効率的・計画的に省エネを推進した。</p> <p>同事業所の特徴は、テナント内や共用部に空調設備（P-MAC）を設置し、テナントに関しては、空調、照明の電力量が積算可能な設備設計を実施している。</p> <p>老朽化したP-MAC※（91台）をリニューアル改装等に合わせて効率的・計画的に省エネ型に更新した。</p> <p>上記により平成25～27年度の合計で約540トン、約14%のCO₂排出削減を達成した。</p>

事業者の連携による取組（2組4者）

受賞事業者	事業者の取組
株式会社 J-オイルミルズ 日産自動車株式会社	<p>日産自動車横浜工場は、コージェネレーションシステム※（以下コージェネ）にて製造される余剰蒸気を J-オイルミルズ横浜工場へ供給することで省エネと CO₂ 削減を実現した。</p> <p>日産自動車は、電力と蒸気の供給を目的にコージェネの導入を検討していたが、事業所に必要な電力量に対して、発電に伴う廃熱を回収して製造した蒸気を使いきれない課題があった。</p> <p>一方、J-オイルミルズは油脂製造・製品化過程において多くの蒸気の需要があり、蒸気ボイラーにより年間 13,250 トン（平成 27 年度実績）の CO₂ を排出していた。</p> <p>そこで両事業者は連携し、日産自動車が導入したコージェネで発生する廃熱を利用した蒸気を J-オイルミルズへ供給することで、J-オイルミルズでは平成 28 年度に約 2500 トンの CO₂ 排出量の削減を達成した。</p>
株式会社東芝 日清オイリオグループ株式会社	<p>株式会社東芝 生産技術センターは、事業所内で使用する蒸気を隣接する日清オイリオグループから、企業間連携による調達により CO₂ 削減を実現した。</p> <p>日清オイリオグループでは、コージェネレーションシステム排熱、貫流ボイラー及び焼却用廃熱ボイラーの組み合わせにより事業場で大量に使用する蒸気を製造している。</p> <p>一方、東芝生産技術センターでは、貫流ボイラーで空調等に使用する蒸気を製造している。</p> <p>そこで両事業者は連携し、エネルギー利用効率の高い日清オイリオグループで製造した蒸気を東芝へ供給することにより、平成 28 年度に東芝横浜事業所における蒸気製造に伴う CO₂ 排出量の 20%削減（平成 27 年度比）を達成した。</p>

※用語の説明

- ・チラー：冷温水循環装置のことで各種液体を一定の温度にコントロールする機器
- ・AHU：外部熱源設備から供給される冷水・温水・蒸気等を用いて、温度・湿度を調節する比較的大きな一体型の空調機
- ・BEMS：ビルの電力負荷、熱負荷を総合的に管理するシステム
- ・P-MAC：年間自動冷暖房が可能な水熱源個別空調システム
- ・コージェネレーションシステム：都市ガスや水素等から「電気」と「熱」を作る発電システム